車窓から見える
瀬戸内の島々

大畠駅（山陽本線で最も海に近い駅）

大島大橋から見た列車（写真は「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」）

神戸と門司を結ぶ「山陽本線」。その名の通り、山陽側の主要都市を結ぶ、西日本の大動脈です。しかし、500ｋｍを超える本線のうち、瀬戸内海の見える区間は意外に少ないことに気づきます。

山陽本線は、関門トンネルのある下関～門司間を除き、明治 30 年代までに、神戸から西へ延伸する形で建設されました。建設当時は、海上から砲撃があると不利になるという軍事上の理由から、海岸線沿いに鉄道をつくることは敬遠されていました。

それでも、地形上、経費の都合上、人口密集の状況などから、海岸沿いにつくられた区間がいくつか存在します。そのほとんどが、１～２駅間のみの短い区間となっています。

そんな中、海岸線沿いを走る距離が圧倒的に長いのは、柳井港～南岩国間です。この区間は、1897（明治 30）年に開通しました。1934（昭和 9）年に、岩国と徳山（櫛ヶ浜）を短距離で結ぶ岩徳線が開通して本線となり、柳井経由の路線は「柳井線」という名の支線となりましたが、戦時中の 1944（昭和 19）年に複線化が完了して本線に戻りました。

高度成長期には、特急、急行がひっきりなしに通り、輸送力強化のため、設備が増強されました。当時は多くの人がこの区間を通り、瀬戸内の多島美を楽しみました。

1975（昭和 50）年に山陽新幹線岡山～博多間が開通し、長距離輸送部門を新幹線に譲りましたが、かつてとほとんど変わらない山陽本線屈指の景観を、車窓からゆっくり眺めることができます。

冷え込んで海水温との差が大きく、風の弱い日には、浮島現象を見ることができます。

浮島現象が起こった時の島々（神代～由宇間、裏面の⑧の地点から撮影）

普段の島々（神代～由宇間、裏面の⑧の地点から撮影）

車窓から見える瀬戸内の島々（大畠～神代間、裏面の⑥の地点から撮影）

柳井～岩国間の見どころ

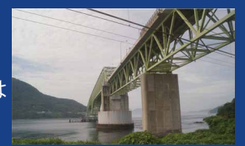
①柳井駅：駅周辺は、海上交通の要衝として栄えた商業都市。江戸期から明治期にかけての町家が 200mにわたって建ち並ぶ「白壁の町並み」は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

②柳井港駅：駅と港との近さは日本有数。松山へのフェリーや、平郡島、祝島への航路がある。

③柳井港～大畠駅間の車窓：国道 188 号と並走しており、笠佐島や室津半島を見ることができる。次第に大島大橋が見えてくる。

④大畠駅：山陽本線で最も海に近い駅。まさに目の前が海。

⑤大畠瀬戸：日本三大潮流の一つといわれ、「龍宮の西門」とも呼ばれる。大島大橋は 1976(昭和 51) 年に完成した全長 1020mの連続トラス橋。橋の上は全国的に知られる鉄道撮影地。



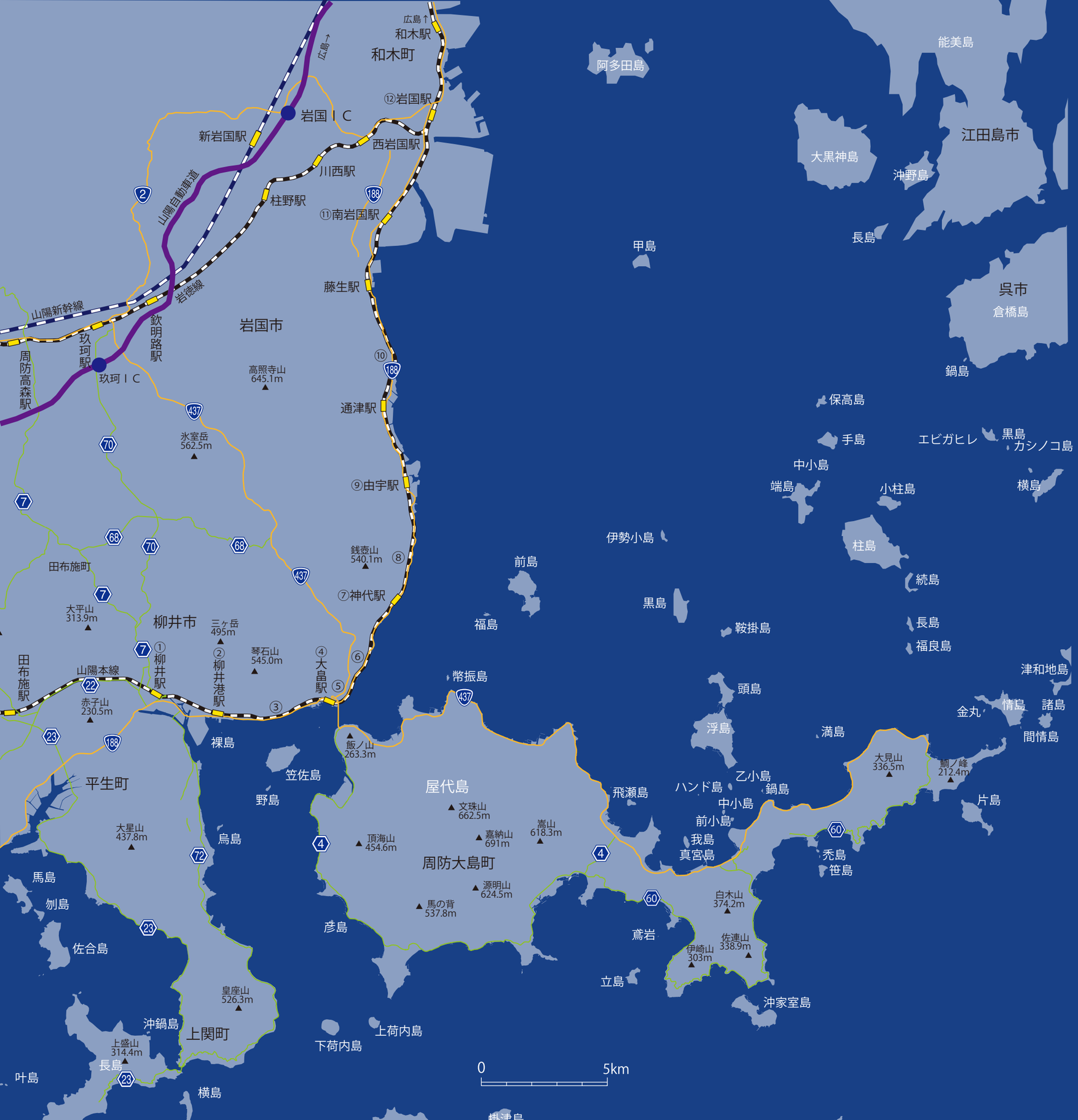
⑥大畠～神代駅間の車窓：線路のすぐ東側が海。その距離は 2.5ｋｍに及び、瀬戸内海の多島美が楽しめる（写真は表面参照）。

⑦神代駅：山陽本線で最も利用者の少ない木造の無人駅。1944(昭和 19) 年開業。

⑧神代～由宇駅間の車窓：国道 188 号と並走している。船型の建物は、かつて盛んだった廻船業を象徴する由宇歴史民俗資料館。

⑨由宇駅：「カープタウンゆう」にちなみ、駅舎や跨線橋の一部は赤色に塗られ、広島カープの選手が紹介されている。カープ練習場へは、バスで 23 分。

⑩通津～藤生駅間の車窓：線路のすぐ東側が海。1.5ｋｍにわたって砂浜が広がり、広島県の島々と穏やかな海が一望できる。

⑪南岩国駅：「岩国れんこん」の生産地。駅の東側にハス田が広がる。

⑫岩国駅：1934 ～ 44(昭和 9 ～ 19) 年まで山陽本線だったＪＲ岩徳線の接続駅。国の名勝「錦帯橋」へは、バスで約 15 分。錦帯橋周辺には、城下町の町並みが広がる。